制服という、
人の心に残るものづくりに携わっていきたい。

3
2021

田中友章
型紙作成（パタンナー）

田中さんが高校時代に所属していた部活では、卒業した先輩が後輩に制服を譲る伝統があったそうです。一年生の時に尊敬する先輩から制服を譲り受け、卒業まで着用していました。「制服は何年も着用され、楽しかったこと、つらかったことなど、青春の一ページを思い出させてくれるもの。そんな人の心に残るものづくりに携わりたいと思い、この仕事を選びました。」

入社以来、品質技術部商品設計課パターン係で男子ジャケットや詰襟のパタンナーとして活躍。主に学校提案用の見本パターンの作成、量産パターンのグレーディングを担当しています。「営業や工場の担当から設計、仕様などの様々な問い合わせがあります。その問い合わせに迅速に対応できた時や、他の担当から頼られる場面では、仕事をする上での達成感を感じます。」

また、工場見学者の対応をしていた際、自分の担当した展示製品に「かっこいい」というリアクションをもらった時も、本当に嬉しかったそうです。「やりがいや達成感は、この仕事を続ける上で大事なことです。でも、それには奥深い技術や知識の習得は欠かせません。経験を積んで、制服作りの面白さを感じることができるようになれば、今度は人に伝えたくなる。それが、私のモチベーションです。そうして手掛けた制服を多くの人が着て、卒業した後も大切な思い出の一部になってくれたら、本当に幸せです。」

もっと生の声
Q&A

—— 思い出に残っていることはありますか?

服飾の専門学校に通っていましたが、入社直後は学校で学んだことをなかなか活かすことができませんでした。入社してから、時には失敗しながらも学び、試行錯誤して作ったパターンが思い通りの製品としてでき上がったときには大変感慨深かったです。

—— 仕事をする上で気を付けていることはありますか?

様々な業務の納期を管理しながら進めなければなりませんが、入社当時、優先順位を間違えて、後工程に迷惑をかけたことがありました。それからは、優先順位を必ず確認し、業務を進めるようにしています。また、制服は短期間で品質を保ちながら大量生産することを求められますので、生産性と品質を兼ね備えたパターン作りを大切にしています。

—— 今後目指していることを教えてください。

自分の担当商品や業務を超えて、幅広い知識と技術を身につけたいです。入社2年目の時、技術や知識の幅を広げるため、見本縫製ラインで縫製業務を1年間経験しました。実際に生地を触って、ミシンで縫って初めて分かることがあり、現在の業務にも役立っています。多くのことを経験し、学ぶことで、マルチプレイヤーとして活躍していきたいです。